

被災中学生を 招待 楽しく交流



東日本大震災の被災地の子どもたちを元気づけ楽しんでもらおうと、富野中学校PTAや自治会でつくる実行委員会が、宮城県東松島市の中学生を招いて交流しました。富野地区の民家にホームステイしながら、

富野中学校生徒とバレーボールやバーベキューを楽しんだり、市内の施設や小瀬鶴飼を見学したりしました。震災後のいまだ不自由な生活から一時解放され、新しい友達と楽しい思い出を作っていました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



力強い自治体間協定

関市と三重県名張市は、地震などの災害時に相互支援する協定を締結しました。両市いずれかが大規模災害で被災した場合、食料・飲料水の提供、被災者の救出・医療支援、職員派遣や被災者受け入れなどを行います。両市長は大学時代から親交があり、東日本大震災を受け協議を進めました。関市が他県の市と防災協定を結ぶのは3例目。尾藤市長は「互いに太い絆を持って支援に取り組みたい」と述べました。

関市の夏の彩り

夏の目玉行事、関市ふるさと夏まつりが今年も本町通りを中心に行われ、多くの人でにぎわいました。園児のパレードを皮切りに、金魚すくいや盆踊りなど楽しい催しが勢ぞろい。さまざまなゲームに挑戦したり、かき氷を食べたりする浴衣姿の子どもたちやイベントを縁の下で支える商店街の人たちなど、参加者すべての人が笑顔で真夏の夜を満喫していました。





円空上人偲び伝統の川まつり

全国を行脚し、約12万体の仏像を彫り続けた円空上人が再興し、入定の地である弥勒寺一帯で、毎年8月第1日曜日に行う法要と川供養「円空川まつり」が開かれました。円空仏の展示、境内での護摩焚きや恒例となっている餅まきなどが行われたほか、日暮れには幻想的な万灯流しの催しがあり、多くの参加者は関市に深く関わった円空上人の遺徳を偲んでいました。

発掘調査で歴史をひも解く

池尻大塚古墳で、埋葬の中心部分の調査のため石室の一部を解体する作業が実施されました。発掘調査で、古墳の横穴式石室をクレーンを使って解体する試みは県内では初めてのことです。6トン以上ある天井石を吊り上げるなど、慎重に作業しました。今後石室全体に覆屋を設けて、10月上旬まで調査を実施。調査後は、正確に元の位置に戻して復旧します。



平安時代に遡る菩薩像

平成20年12月に板取地域で初めて市重要文化財に指定された、白谷観音で知られる白谷観音堂「木造十一面観世音菩薩立像」の公開が8月17日、板取白谷地区の円教寺であり、一目見ようと多くの市民でにぎわいました。この仏像は、秘仏のため公開は7年に1回。地域で親しまれているこの仏像は、所有する地元の白谷自治会が大切に守っています。平安時代の優作として高く評価される貴重な文化財です。

協働で地域の将来像を描こう

上之保地域の未来を考え、元気なまちづくりを目指す「地域づくり講演会」が開かれ、参加者がその手法を学びました。講師の延藤安弘さんは、地域づくりの一步はみんなで夢と危機感を分かち合うこと、困難を糧にすること、住民と行政が響き合う関係を目指すことなどを話されました。市は、今後10年間の「住民と行政が協働で行う地域づくり」を具現化するため、上之保地域振興計画を作成する予定です。



こぼれ話



宮城県東松島市の被災中学生受け入れ事業を4日間、密着取材しました。震災で家族や親友を失ったこの生徒たちは、多くの人の支援に恩返しをしたい、友達を増やしたいとそれぞれの思いで、目的を持って交流に参加してくれました。初日の歓迎会では少し緊張した表情でしたが、富野中学生とスポーツや食事などのふれあいが進むにつれ、明るい笑顔を見せていました。それは、震災での心の傷を抱えていることを感じさせず、むしろたくましさを感じさせるものでした。

富野中学生も精一杯おもてなしながら、被災地の生の声を聞いて改めて感じるものがあつたに違いありません。また、一時の癒しの場を提供しようと、事業を企画された富野地区の皆さんの温かさご苦労に敬意を表します。こうした活動の輪が今後も広がっていけばと思います。心が通い合ったこの経験で、一人でも多くの思いが復興の力になればと思います。また、被災地の校庭に咲いた「希望のひまわり」など、印象に残る話を聞くこともできました。この模様は、広報番組ケーブルテレビ「明日を創る関のまち9月号」で放送しますので、ぜひご覧ください。